

# 平成28年度 第2四半期(上半期)報告 説明資料

平成28年11月24日  
明治安田生命保険相互会社

# 1. 上半期のポイント

- 日銀のマイナス金利政策を背景とする超低金利環境の継続や、英国のEU離脱決定を受けた大幅な円高の進行等の影響を受ける厳しい経営環境のもと、平成28年度上半期は減収・減益
- 為替等の運用環境の影響を除く、保険関係収支については計画どおり進捗
- 保険料等収入は計画どおりに進捗。国内金利上昇時のリスクを抑制し、財務の健全性を維持するため、一時払商品の予定利率引下げや一部販売休止ならびに団体年金の引受抑制等のコントロールを実施
- 営業職員チャネルでは、平準払商品の保険料等収入が増加し、新契約年換算保険料も前年同期を上回る
- 基礎利益は、円高の進行等の影響に伴う利差の減少により前年同期は下回るが、計画を上回る水準を確保
- ソルベンシー・マージン比率は、市場環境の変動等により前年度末を下回るが、引き続き高い財務健全性を維持
- 平成28年度業績見通しは、金利上昇リスクや財務の健全性の観点から、一時払商品の収入保険料をさらに抑制し、保険料等収入を下方修正。基礎利益については変更なし

## 【トピックス】 14～16ページ

- ①「かんたん保険シリーズ ライト! By 明治安田生命」の創設
- ②ご高齢のお客さまへのアフターフォローの取り組み
- ③「明治安田生命Jリーグ」の取り組み

## 2. 明治安田生命グループの業績について

- グループ保険料は、明治安田単体の影響を受け、前年同期比19.6%の減収 ①
- グループ基礎利益は、厳しい運用環境であったが、減益幅を10.3%にとどめ、2,000億円を確保 ②
- 連結ソルベンシー・マージン比率は、940.0%と、高い健全性を維持 ③

### ○ グループ業績

(単位：億円)

	平成28年度		平成27年度 上半期
	上半期	前年同期比	
グループ保険料 <sup>(注1)</sup>	① 14,678	△19.6%	18,246
グループ基礎利益 <sup>(注2)(注3)</sup>	② 2,192	△10.3%	2,445

### ○ 単体業績

(単位：億円)

	平成28年度		平成27年度 上半期
	上半期	前年同期比	
保険料等収入	13,763	△24.0%	18,121
基礎利益	2,098	△13.6%	2,428

(単位：%)

	平成28年度		平成27年度末
	上半期末	前年度末差	
連結ソルベンシー・マージン比率	③ 940.0	△43.7ポイント	983.7

(単位：%)

	平成28年度		平成27年度末
	上半期末	前年度末差	
ソルベンシー・マージン比率	883.5	△55.0ポイント	938.5

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は明治安田生命の基礎利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益（持分法適用の関連法人等については明治安田生命の持分相当額）を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) スタンコープ社については、平成28年3月（株式取得月）から6月までの4ヵ月相当額の数値を合算

### 3. 保険料等収入について

- 保険料等収入 1兆3,763億円(前年同期比24.0%減少) ①
  - ・ 超低金利環境を受け、一時払商品の予定利率引下げや一部販売休止ならびに団体年金の引受抑制等のコントロールを実施。計画どおりに進捗
  - ・ 営業職員チャネルの平準払商品の保険料等収入は、前年同期比6.1%増加と順調に伸展 ②

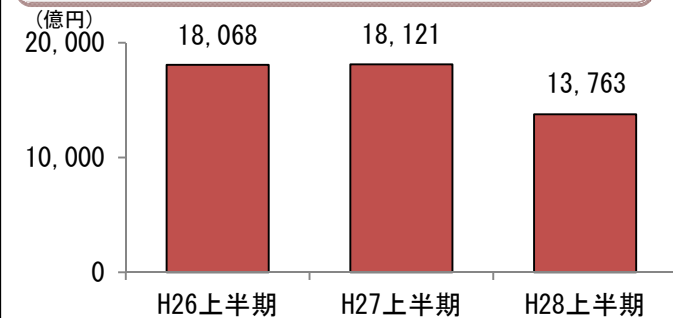
#### ○ 保険料等収入の状況

	平成 28 年度	
	上半期	前年同期比
保険料等収入	13,763	△24.0%
うち個人保険・個人年金保険	8,765	△27.3%
うち営業職員チャネル	6,605	△9.3%
うち平準払商品	5,912	6.1%
うち銀行窓販チャネル	1,894	△57.8%
うち団体保険	1,545	1.4%
うち団体年金保険	3,268	△24.9%

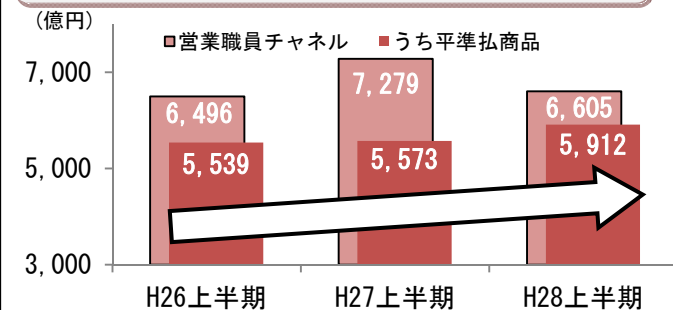
(単位：億円)

平成 27 年度
上半期
18,121
12,057
7,279
5,573
4,488
1,524
4,352

#### ① 保険料等収入の推移



#### ② 営業職員チャネルの保険料等収入



# 4. 年換算保険料・保有契約高について

- 新契約年換算保険料 824億円(前年同期比14.7%減少) ①
  - ・ 営業職員チャネルは、総合保障商品『ベストスタイル』等の保障性商品の販売好調等により、前年同期を上回り、引き続き増加傾向 ②
  - ・ 特に、第三分野は、前年同期比12.1%増と大きく伸展 ③
- 保有契約年換算保険料 2兆2,198億円(前年度末比1.1%増加) ④
  - ・ 契約クオリティの向上等により、8年連続で純増(上半期ベース)
- 団体保険の保有契約高は、引き続き業界トップシェアを堅持 ⑤

## ○ 新契約年換算保険料の状況(個人保険・個人年金保険)

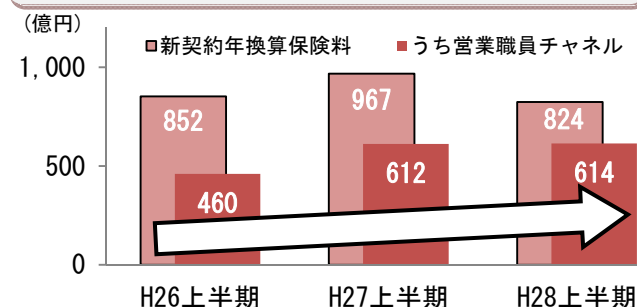
	平成28年度		前年同期比
	上半期		
新契約年換算保険料	824	①	△14.7%
うち営業職員チャネル	614	②	0.2%
うち銀行窓販チャネル	195		△42.3%
うち第三分野 <sup>(注1)</sup>	197	③	12.1%

(注1) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

(単位：億円)

平成27年度	
上半期	
新契約年換算保険料	967
うち営業職員チャネル	612
うち銀行窓販チャネル	339
うち第三分野	176

## ①・②新契約年換算保険料



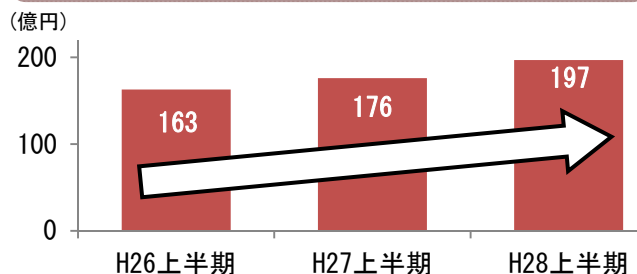
## ○ 保有契約年換算保険料の状況(個人保険・個人年金保険)

	平成28年度		前年度末比
	上半期末		
保有契約年換算保険料	22,198	④	1.1%
うち営業職員チャネル	15,741		1.0%
うち銀行窓販チャネル	6,016		1.1%

(単位：億円)

平成27年度末	
保有契約年換算保険料	21,966
うち営業職員チャネル	15,578
うち銀行窓販チャネル	5,951

## ③第三分野新契約年換算保険料



## ○ 保有契約高の状況(団体保険・団体年金保険)

	平成28年度		前年度末比
	上半期末		
団体保険	1,117,262	⑤	△0.2%
団体年金保険	73,904		0.6%
(国内グループ) <sup>(注2)</sup>	84,685		0.6%

(単位：億円)

平成27年度末	
保有契約高	1,119,188
団体年金保険	73,454
(国内グループ)	84,192

(注2) 国内グループは明治安田単体および明治安田アセットマネジメントの合計

## 5. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)について

- 対面によりご契約内容やご請求有無を確認する「定期点検」等を通じた積極的なアフターフォローにより、契約クオリティを示す指標は引き続き良好
- 解約・失効・減額率 1.86% (前年同期差0.06ポイント改善) ①
- 総合継続率は13月目・25月目総合継続率ともに前年同期より改善し、高水準を維持 ②

### ○ 解約・失効・減額率<sup>(注1)</sup>の状況 (個人保険・個人年金保険)

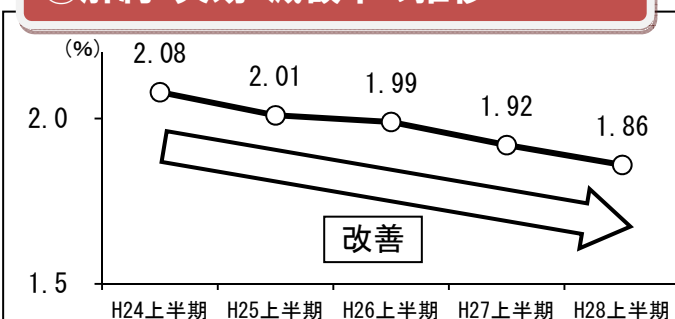
	平成 28 年度	
	上半期	前年同期差
解約・失効・減額率	1.86	△0.06 ポイント

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

(単位：%)

平成 27 年度 上半期
1.92

### ①解約・失効・減額率の推移



### ○ 総合継続率<sup>(注2)</sup>の状況 (個人保険・個人年金保険)

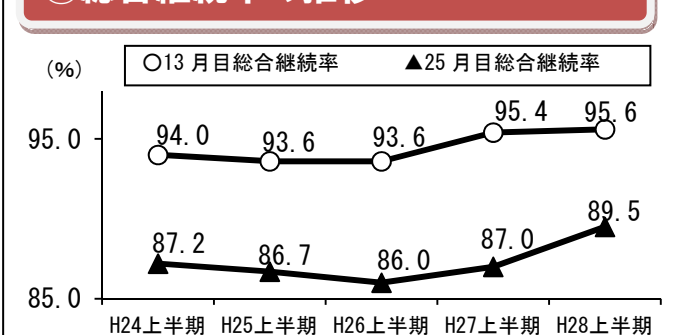
	平成 28 年度	
	上半期	前年同期差
13月目総合継続率	95.6	0.2 ポイント
25月目総合継続率	89.5	2.5 ポイント

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

(単位：%)

平成 27 年度 上半期
95.4
87.0

### ②総合継続率の推移



## 6. 資産運用収支について

○ 資産運用収支（一般勘定） 2,349億円（前年同期差877億円減少）

- ・ 利息及び配当金等収入は、超低金利かつボラティリティの高い運用環境が継続するなか、市場動向に応じた効果的な資産配分や資産運用の高度化・多様化等により、ほぼ前年どおりの水準を確保 ①
- ・ 資産運用収支（一般勘定）は、円高が進行するなか、外国公社債における有価証券償還益の減少ならびに有価証券評価損の増加等に伴い、前年同期を下回る ②

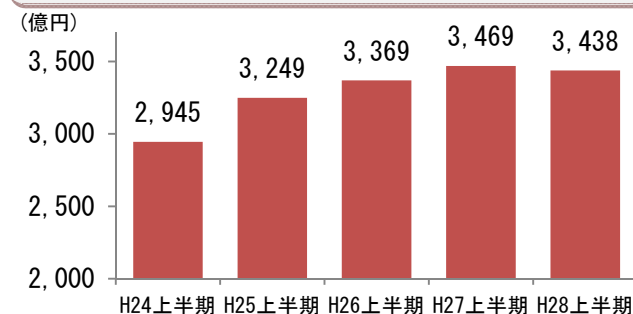
○ 資産運用収支の状況

		平成 28 年度	
		上半期	前年同期差
一般勘定	資産運用収益	3,819	△264
	利息及び配当金等収入 ①	3,438	△31
	有価証券売却益	84	10
	有価証券償還益	289	△249
	資産運用費用	1,469	612
	有価証券売却損	267	248
	有価証券評価損	632	554
	金融派生商品費用	344	△266
資産運用収支（一般勘定） ②		2,349	△877
資産運用収支（全社）		2,199	△749

（単位：億円）

平成 27 年度	
上半期	
4,083	
3,469	
74	
538	
856	
18	
77	
610	
3,226	
2,949	

### ① 利息及び配当金等収入の推移



<参考>平成28年度上半期報告の運用環境

	平成 28 年度	
	上半期末	前年同期差
TOPIX	1,322.78	△88.38
日経平均株価 (円)	16,449.84	△938.31
10年国債利回り (%)	△0.085	△0.435
円相場 (円/\$)	101.12	△18.84
円相場 (円/€)	113.36	△21.61

平成 27 年度	
上半期末	
1,411.16	
17,388.15	
0.350	
119.96	
134.97	

平成 27 年度末	
1,347.20	
16,758.67	
△0.050	
112.68	
127.70	

# 7. 基礎利益等について

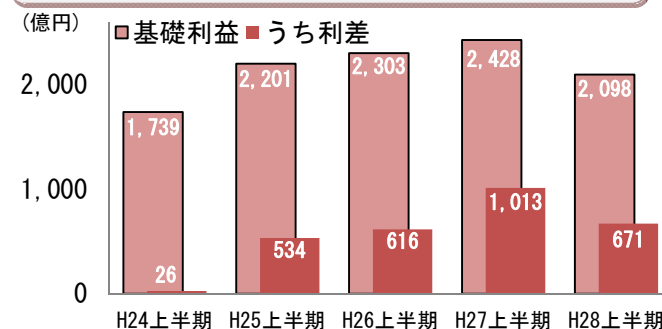
- 基礎利益 2,098億円（前年同期差329億円減少） ①
  - ・ 危険差および費差は前年同期から微増したものの、利差の減少（前年同期差341億円減少）により、基礎利益は前年同期を下回るが、計画を上回る水準を確保 ② ③

## ○ 基礎利益等の状況

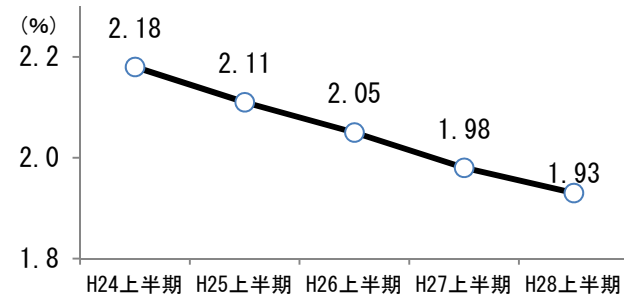
	平成 28 年度		前年同期差	平成 27 年度	
	上半期			上半期	
基礎利益 (A)	① 2,098		△329	2,428	
利差	② 671		△341	1,013	
危険差	③ 1,398		4	1,393	
費差	28		7	21	
キャピタル損益 (B)		△1,161	△530		△630
臨時損益 (C) (注)		△207	28		△235
経常利益 (A+B+C)		729	△832		1,562

(注) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

## ① 基礎利益・②利差の推移



## ② 平均予定利率の推移





## 8. ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額、内部留保等について

- ソルベンシー・マージン比率 883.5% (前年度末差55.0ポイント減少) ①
  - ・ 其他有価証券評価差額金の減少等により、前年度末を下回るが、引き続き高い財務健全性を維持。なお、自己資本を充実させることを目的として、8月に基金1,000億円を募集
- 内部留保等 2兆3,182億円 (前年度末差286億円増加) ②

### ○ ソルベンシー・マージン比率

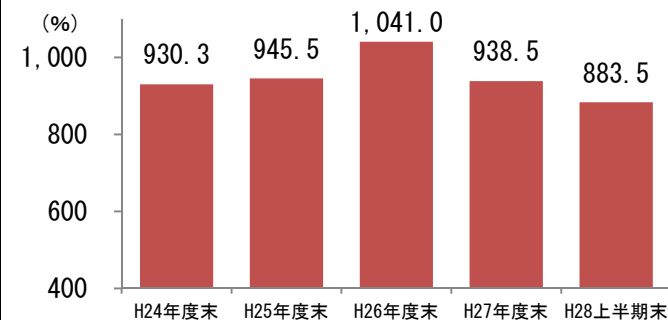
(単位：億円、%)

	平成 28 年度	
	上半期末	前年度末差
ソルベンシー・マージン比率 (注1) ①	883.5	△55.0 ポイント
ソルベンシー・マージン総額 (A)	63,851	△4,202
リスクの合計額 (B)	14,453	△48

(注1) ソルベンシー・マージン比率 = (A) / (1/2 × (B)) × 100

平成 27 年度末
938.5
68,054
14,502

### ① ソルベンシー・マージン比率の推移



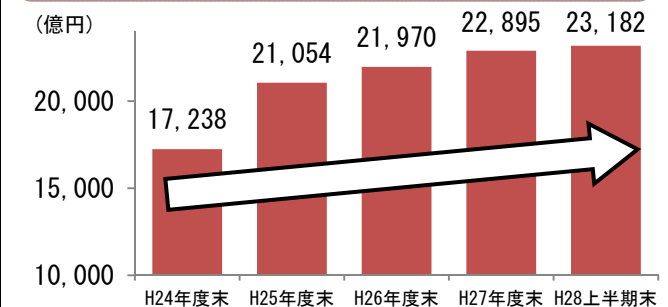
### ○ 実質純資産額

(単位：億円、%)

	平成 28 年度	
	上半期末	前年度末差
実質純資産額	91,311	△3,844
一般勘定資産に対する比率	25.7	△0.9 ポイント

平成 27 年度末
95,156
26.6

### ② 内部留保等の推移



### ○ 内部留保等 (注2)

(単位：億円)

	平成 28 年度	
	上半期末	前年度末差
内部留保等 ②	23,182	286

(注2) 内部留保等の内訳：基金・基金償却積立金、基金償却準備金、価格変動積立金、事業基盤強化積立金、危険準備金、価格変動準備金等

## 9. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準について

- 含み損益 5兆8,248億円(前年度末差3,459億円減少) ①
  - ・ 円高の進行ならびに株価の下落等により前年度末から減少
- 国内株式含み損益ゼロ水準 8,200円程度 ②

### ○ 一般勘定資産全体の含み損益

	平成 28 年度		前年度末差	平成 27 年度末
	上半期末			
一般勘定資産全体の含み損益	① 58,248	△3,459		61,707
うち時価のある有価証券(注)	55,377	△2,827		58,204
うち公社債	32,791	1,181		31,610
うち株式	17,381	△496		17,877
うち外国証券	4,820	△3,466		8,287

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

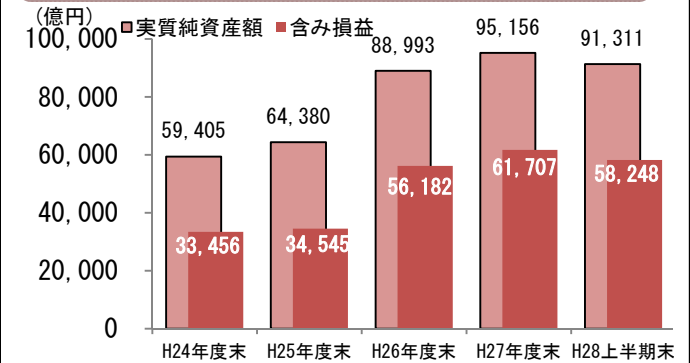
### ○ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動とした場合

	平成 28 年度上半期末※	平成 27 年度末
日経平均株価ベース	② 8,200円程度	8,100円程度
TOPIXベース	650ポイント程度	650ポイント程度

※株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合、日経平均株価 8,400円程度、TOPIX 670ポイント程度

### ① 含み損益の推移



# 10. EEVについて

- 企業価値（EEV） 5兆2,329億円（前年度末差1,730億円増加）
  - ・ 営業職員チャンネルにおける新契約業績の伸展、契約クオリティの改善等により、中期経営計画の経営目標達成に向け順調に推移 ①
- ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー（EEV） 3兆3,280億円（前年度末差733億円減少）
  - ・ 『ベストスタイル』等の販売好調により保有契約価値は増加したものの、円高の進行に伴う外貨建て資産の含み益減少により修正純資産が減少し、EEVは前年度末から微減
  - ・ スタンコープ社買収に伴い、平成27年度末から同社EEVを合算

## ○ 企業価値（EEV）<sup>（注1）</sup>

	平成28年度		平成27年度末
	上半期末	前年度末差	
企業価値（EEV）	① 52,329	1,730	50,599

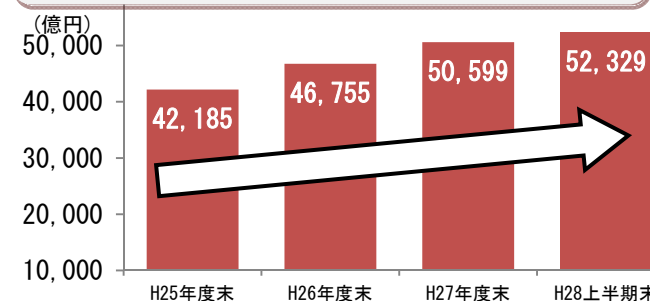
（注1）企業価値（EEV）は、明治安田単体の中期経営計画の経営目標であり、経済環境の前提を平成25年度末で固定していることから、下表のヨーロピアン・エンベディッド・バリュー（EEV）とは数値が相違

## ○ ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー（EEV）<sup>（注2）</sup>

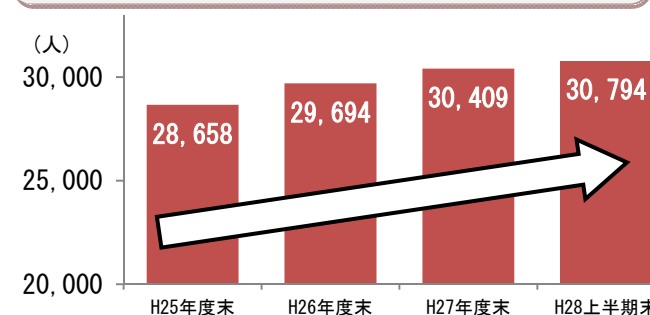
	平成28年度		平成27年度末
	上半期末	前年度末差	
EEV	33,280	△733	34,014
うち明治安田単体	35,665	△780	36,445
うちスタンコープ社	3,642	47	3,594

（注2）詳細は、2016年11月24日付ニュースリリース「2016年9月末ヨーロピアン・エンベディッド・バリューの開示について」参照

## ① 企業価値EEVの推移 （平成28年度末目標53,000億円）



## 【ご参考】営業職員在籍者数の推移 （平成28年度目標30,000人）



# 11. 平成28年度業績見通し

## ○平成28年度業績は「減収・減益」の見通し

- ・ 保険料等収入については、金利上昇リスクや財務の健全性の観点から、一時払商品の収入保険料をさらに抑制し、平成27年度決算報告時に発表した業績見通しから下方修正 **①**
- ・ 基礎利益は平成27年度決算報告時から変更なし

## ○ 単体業績見通し

### <参考>

	平成28年度上半期報告時（修正）	平成27年度決算報告時
保険料等収入	<b>①</b> 24,600億円程度	26,200億円程度
	平成27年度決算報告時	
基礎利益	4,300億円程度	
企業価値（EEV） <sup>（注1）</sup>	53,000億円程度	

平成27年度実績	
	33,578億円
平成27年度実績	
	4,599億円
	50,599億円

（注1）年度末見通しは年1回の計算のため、平成27年度決算報告時から修正なし

## 【ご参考】グループ業績見通し

### <参考>

	平成27年度決算報告時
グループ保険料 <sup>（注2）</sup>	減少
グループ基礎利益 <sup>（注3）</sup>	横ばい

平成27年度実績	
	33,816億円
	4,660億円

（注2）グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入。グループ保険料の平成28年度業績見通しには、スタンコープ社を含む

（注3）グループ基礎利益は明治安田生命の基礎利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益（持分法適用の関連法人等については明治安田生命の持分相当額）を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値を掲載。グループ基礎利益の平成28年度業績見通しには、スタンコープ社が含まれており、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

## (ご参考)損益計算書・連結損益計算書

### ○ 中間損益計算書 (要約)

(単位：億円)

	平成 28 年度		平成 27 年度 上半期
	上半期	前年同期比	
経常収益 (A)	18,199	△19.5%	22,605
うち保険料等収入	13,763	△24.0%	18,121
うち資産運用収益	3,819	△6.5%	4,083
経常費用 (B)	17,469	△17.0%	21,043
うち保険金等支払金※	10,866	△7.4%	11,733
うち責任準備金等繰入額	2,425	△55.0%	5,392
うち資産運用費用	1,619	42.7%	1,134
うち事業費	1,789	△3.6%	1,856
経常利益 (A-B)	729	△53.3%	1,562
うち基礎利益	2,098	△13.6%	2,428
特別損益	538	-	△138
法人税等合計	136	△8.1%	149
中間純剰余	1,131	△11.2%	1,274

### ○ 中間連結損益計算書 (要約)

(単位：億円)

	平成 28 年度 上半期
経常収益 (A)	19,397
うち保険料等収入	14,678
うち資産運用収益	3,999
経常費用 (B)	18,704
うち保険金等支払金	11,517
うち責任準備金等繰入額	2,439
うち資産運用費用	1,710
うち事業費	2,130
経常利益 (A-B)	693
うち基礎利益	
特別損益	539
法人税等合計	155
親会社に帰属する中間純剰余	1,073

### ※保険金等支払金の内訳

(単位：億円)

	平成 28 年度		平成 27 年度 上半期
	上半期	前年同期比	
保険金等支払金	10,866	△7.4%	11,733
うち保険金・給付金	4,776	△3.4%	4,943
うち年金	3,178	△7.0%	3,415
うち解約返戻金・その他返戻金	2,882	△13.8%	3,342

## (ご参考)貸借対照表・連結貸借対照表

### ○ 中間貸借対照表 (要約)

(単位：億円)

	平成 28 年度		平成 27 年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	363,360	△2,406	365,766
うち現預金・コールローン	6,778	2,664	4,114
うち有価証券	291,633	△3,726	295,359
うち貸付金	48,510	△988	49,498
うち有形固定資産	8,885	△41	8,927
うち無形固定資産	722	△5	728
負債の部合計	329,258	456	328,801
うち保険契約準備金	317,172	3,052	314,120
うち責任準備金	313,034	2,424	310,609
うち社債	2,383	-	2,383
うちその他負債	2,436	△1,037	3,474
うち価格変動準備金	4,665	△551	5,216
純資産の部合計	34,102	△2,862	36,965
うち基金・基金償却積立金	8,300	1,000	7,300
うち剰余金	4,148	△1,047	5,195
うちその他有価証券評価差額金	19,957	△2,922	22,880

### ○ 中間連結貸借対照表 (要約)

(単位：億円)

	平成 28 年度 上半期末
資産の部合計	386,611
うち現預金・コールローン	8,116
うち有価証券	301,202
うち貸付金	54,846
うち有形固定資産	9,234
うち無形固定資産	4,717
負債の部合計	353,726
うち保険契約準備金	339,145
うち責任準備金	329,578
うち社債	2,881
うちその他負債	3,514
うち価格変動準備金	4,669
純資産の部合計	32,884
うち基金・基金償却積立金	8,300
うち連結剰余金	3,953
うちその他有価証券評価差額金	20,172

※資産の部合計は、36兆3,360億円（前年度末比0.7%減）となりました。主な資産構成は、有価証券29兆1,633億円（同1.3%減）、貸付金が4兆8,510億円（同2.0%減）であります。負債の部合計は、32兆9,258億円（同0.1%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は31兆7,172億円（同1.0%増）となりました。純資産の部合計は、3兆4,102億円（同7.7%減）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,300億円（同13.7%増）、その他有価証券評価差額金は1兆9,957億円（同12.8%減）となりました。

# トピックス①「かんたん保険シリーズ ライト! By明治安田生命」の創設

## ◇「かんたん保険シリーズ ライト! By明治安田生命」創設の趣旨

近年の単身世帯や女性就業者の増加等に伴い、若年層を中心に保険未加入者の増加や保険加入ニーズの多様化が進展していることをふまえ、20代・30代のお客さまにも手軽にご加入いただけるよう「かんたん」「小口」「わかりやすい」を特徴とした新たな商品シリーズを創設（平成28年10月から）

## ◇「かんたん」「小口」「わかりやすい」を特徴とした3商品をラインアップ

### ○「明治安田生命 じぶんの積立」（無配当災害保障付積立保険）

- ・手軽に始められ、満期保険金のある積立保険として発売
- ・満期時の受取率は103.0%、解約時の返戻率は常に100.0%以上
- ・10月2日の発売以降、約1ヵ月で6.8万件を突破

### ○「明治安田生命 ひとくち終身」（5年ごと利差配当付一時払特別終身保険）

- ・手軽に一生涯にわたる万一の保障をご準備いただける終身保険として発売
- ・1口（50万円）または2口（100万円）でお申し込み可能

### ○「明治安田生命 つみたて学資」（無配当こども保険）

- ・平成27年8月の発売開始以来、多くのお客さまから好評いただいている本商品を「かんたん保険シリーズ ライト! By明治安田生命」にラインアップ
- ・魅力的な受取率でお子さまの成長にあわせた将来の教育費の準備が可能

## ◇「かんたん保険シリーズ ライト! By明治安田生命」の認知度向上への取り組み

生命保険の加入にあたり、インターネット等を通じて自ら情報を収集するお客さまが増加していることをふまえ、本商品シリーズをより多くのお客さまにPRするため、専用のマスコットキャラクターを制作し、Web等での広告を展開



※本資料は保険募集を目的としたものではありません。保険商品の詳細につきましては、「商品パンフレット」等をご覧ください。

## トピックス② ご高齢のお客さまへのアフターフォローの取組み

### ◇「MY長寿ご契約点検制度」

- ・ 一生涯の保障をより確かなものにするために、平成27年4月から「MY長寿ご契約点検制度」を開始
- ・ 長寿の節目である、77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）、108歳（茶寿）、111歳（皇寿）の祝賀を迎えられたご契約者さまに「保険金等のご請求」や「ご連絡先の変更」の有無の確認を実施
- ・ MYライフプランアドバイザーを中心とした定期的な訪問活動等に加えて行なう当社独自の制度
- ・ 平成27年度は対象約9万人のうち、87,700人（96.9%）のご契約点検（請求確認）をすることができ、約2,300件の各種お手続きに対応

### ◇「MY安心ファミリー登録制度」

- ・ 超高齢化社会の進展や大災害をふまえ、ご契約者さま以外の連絡先（第二連絡先）を登録し、ご契約者さまにご連絡がつかない場合に、第二連絡先を通じてご契約者さまの連絡先をご確認させていただく制度
- ・ 前述の「MY長寿ご契約点検制度」においても、ご契約者さまにご連絡がつかない際に、当制度の活用を経て、必要な各種お手続き（住所変更や保険金請求等）に対応した事例が存在
- ・ 登録状況は、ご高齢のご契約者さまを中心として約128万件（平成28年9月末現在）

この夏、故郷のご家族と会いましたか？

明治安田生命

私たちは、90歳以上では99.6%のお客さまのご契約を確認しました。

**MY長寿ご契約点検制度**  
長寿の節目を迎えられるご契約者さまに、保険金等のご請求やご連絡先変更の有無を確認し、その後のお手続きまでしっかりとサポートします。

77歳(喜寿)	90歳(卒寿)	99歳(白寿)	108歳(茶寿)	111歳(皇寿)
はがきや電話による確認	はがきや電話による確認	はがきや電話による確認	はがきや電話による確認	はがきや電話による確認

2016年3月までの1年間で、対象のお客さま約9万人のうち、90歳以上では99.6%、77歳以上では96.9%の方々に、保険金等のご請求やご連絡先変更の有無を確認いたしました。

その結果、「無の保険加入を知らなかった」、「気持ちの整理がつかず先延ばししていた」などの理由でご請求がなかった376件の保険金・給付金の手続きを当社からご案内することができました。

超高齢社会の我が国において、確かなお支払いのため、これからもお客さまと真摯に向き合っています。

アフターフォローで、保険を変えます。

◎この広告に関するお問い合わせ先：ご意見・ご感想 コミュニケーションセンター ☎0120-662-332 月曜～金曜9:00～18:00/土曜9:00～17:00（いずれも祝日・年末年始を除く）



## トピックス③「明治安田生命Jリーグ」の取組み

### ◇2016シーズンで2年目を迎えた「明治安田生命Jリーグ」

- ・「地域に根差したスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに賛同し、2015年1月にタイトルパートナー契約を締結
- ・今年度も、全国の78支社等において「明治安田生命Jリーグ」に所属する全53クラブ等(※)とスポンサー契約を締結
- ・2016シーズンにおいて、当社従業員は地域のみならずとともにスタジアムに足を運び、11月上旬までにのべ約21万人が各試合会場で地元のJクラブ等を応援

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ



### ◇全国各地で小学生を対象としたサッカー教室など、各種イベントを開催

- ・2016シーズンは、Jリーグや各Jクラブの全面協力を得て、地域のお客さま向けのイベントを10月末までに全国で600回以上開催
- ・小学生を対象にしたサッカー教室は、10月までに全国で137回開催し、約1万1千人のお子さまや保護者の方々が参加

### ◇Jリーグや地元のクラブへの応援を通じて、地域社会の活性化に貢献

- ・各クラブのスポンサー企業等から支援クラブ向けの応援メッセージを寄稿いただき、寄贈を行なうキャンペーンを行ない、各クラブとのパートナーシップを強化
- ・年間順位を表示する「Jリーグランキングボード」を当社に掲示するとともに、ご賛同いただいた他のJリーグパートナー企業やクラブスポンサー企業等にもご提供し、各地域におけるJリーグや地元クラブへの応援意識を高める取組みを推進



© avispa fukuoka

